

《最新の意思伝達装置について》

NPO 法人 iCare ほっかいどう
理事・相談員 佐藤 美由紀

令和5年7月1日(土) 今年度年賀助成金でいただいた MACTOS(マクトス_脳波スイッチ)と EMOS(エモス_筋電スイッチ)の研修会及び体験会を札幌医科大学の教室をお借りして実施しました。講師はこの研修会のために東京から来てくださったテクノスジャパンの原野さんです。

実際に支援者が自分の身体に装着して、適切なタイミングで信号を出せるのか？を試していただきました。また今回は、ALS 協会北海道支部の副支部長で ALS 患者の佐川優子さんにご協力いただき、マクトスとエモスを試していただき感想を伺いました。優子さんは普段はファイバースイッチを使用しています。

どのスイッチも同様ですが、スイッチとして使用するためには、自分の意思でスイッチのオンとオフをコントロールできることが重要で、誰かを呼び、自分の意思を伝えるためには必要不可欠です。

研修会の前日、前々日には、札幌市内の施設や中空知地区の病院を訪問して気になる患者さんに試していただきました。当然のことですが、脳波や筋電を利用したマクトスでの発信は、コミュニケーション手段の一つとして使えるものですが、患者さん一人では成り立ちません。『受信してくれる人の存在』があって成立します。また YES・NO が伝えられるうちから、患者さんと家族・介助者・支援者が一緒に体験してみることで、その人に有った活用方法を考え見つけることが出来るかもしれません。

今回の研修は 2023 年度日本郵便年賀寄付金配分に申請し、採択され、以下の4つの機器を購入出来たことで実現しました。

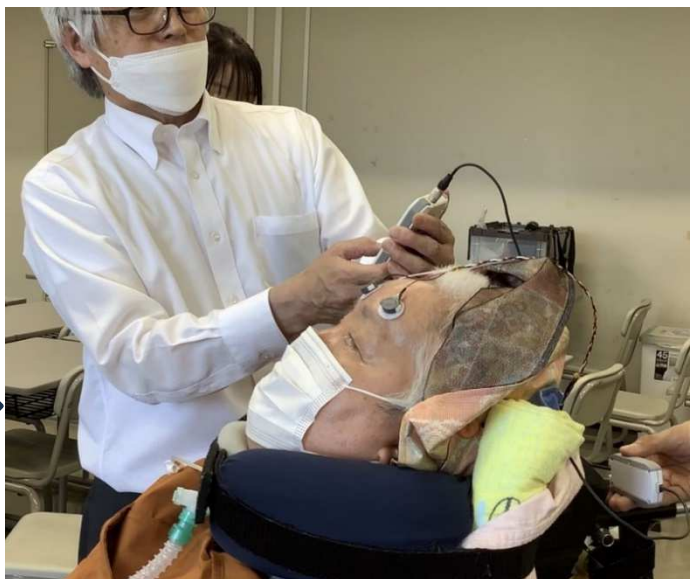
- ① TD パイロット(視線入力で使える iPad)
- ② 指伝話コミュニケーションフルパックセット (スイッチで使う指伝話シリーズのセット) 、
- ③ マクトス : MactosmodesFX(脳波・筋電・眼電信号を利用・操作する意思伝達装置)

④ エモス：EMOS(筋電スイッチ)です。

今回いただけることになったのは、総額 190 万円ほどのコミュニケーション関連の機器で、とても私たちの力では購入することは出来ません。非常に嬉しく心躍っています。年賀状を出される皆様、届けてくださる日本郵便の皆様に心から感謝いたします。

上記①～④の機器の体験を希望される方はお試しください。介助者や訪問リハビリ担当者などの支援者と日程調整の上、iCare ほっかいどうにご相談ください。

モデルとして、マクスを装着中の佐川優子さん



優子さんのヘルパーさんもエモス(筋電スイッチ)を体験。

一番身近な人が一緒に操作や設定方法を学ぶことが患者さんの安心に繋がります。

是非、支援されている方も一緒に体験して下さい。

尚、TD パイロットは 9 月 3 日(日)、指伝話・iPad アクセシビリティ研修会は 9 月末に実施する予定です。是非お申し込みください。